

「カスミコシヨテンジユ」―女が分からない禍

テンジユ科

危険度：★★★★★

生息数：☆☆☆☆☆

生態

カスミコシヨテンジユは見る人間の性別によつてその容姿と生態を変える。本項では男性から見たカスミコシヨテンジユの生態について解説する。

この禍は男性に「強さ」を与え、男性に女性を理解できなくしている。そうして理解し合えないストレスを摂取しているのである。

解説

男性は女性の持つ「弱さ」を持っていない。つまり前項で述べたような特徴を持たないということである。それは男性にとつては当たり前以前の前提であるため、

女性を理解できないのだ。男性から見れば女性は謎に戦いを避け、謎に信念を曲げ、謎に自身の強化に興味を持つ存在なのである。

対処法

男性から見たカスミコシヨテンジユも前項で述べた親子関係の危険を増幅する要素がある。息子から見れば母親の「信念を曲げてもつと和を大事にしろ」という言葉は自分と同じように好戦的な存在から発せられたものとしか思えない。女性が好戦的でないことを知る由もないのだから。そうなるとその言葉の真意が分からずに考えるようになる。一体なぜそのような言葉が発せられたのか。また習い事をさせられたり学歴を求められたり着飾らせられたりした場合も同じで、どういう真意を持つてそのような行動を取らされているかが分からないのである。ここにまた危険な誤解が存在している。男性は女性より真意(信念)を曲げないという特徴があつたが、それにより息子は母親の(存在しない)真意を「存在しないもの」として無視できない

のである。この状態が続くと息子は『何か大切な真意があるはずだが理解できない。しかたないので言われたことを全て守ることで解決しよう』という結論に至るしかないのである。こうして男女の不理解が招く最悪の事象が完成する。思考能力を持たず、母親の言いなりになる息子である。

実は父親と娘の関係性にも同じことが起こっているが、その場合娘は『どうせ父親も信念なんかない言葉を発しているんだらう』という誤解を持つだけであり、これは前述のような最悪の関係性へは発展しない。人間が生物として必要としている「性別」と「禍」の相性は悪い。カスミコシヨテンジユの生む不理解はテンジユ科の引き起こす事象の中でも最悪に近い不幸を生み出す可能性を持つているのである。

